

秘

昭和五年度

作業經過

昭和六年六月

海軍燃料廠研究部

昭和五年度作業經過正誤表

頁	行	誤	正
24	13		9-12. 光學研究の爲京都 帝國大學へ派遣 囑託 藤本春季 を追加
25	10		6-1-5. 京都帝國大學へ派 遣中の所歸敵 囑託 藤本春季 を追加
28	9		9-12. X線研究の爲京都 帝國大學へ派遣 を追加 技生 磯谷延治
29	14		6-1-5 京都帝國大學へ派 遣中の所歸敵 を追加 技生 磯谷延治
30	13	高等工業 部二班 1	高等工業 部二班 2
"	16	高等工業 部 5	高等工業 部 6

昭和五年度作業經過目次

1. 一般經過概要	1
2. 昭和五年度試験検査調査實驗成績調	3
(1) 一般分析試験に關する統計	3
(2) 石炭及煉炭試験成績概要調	3
3. 豫算	4
(1) 昭和五年度豫算決算調	4
(2) 全 上 出張旅費調	6
(3) 全 上 圖書費調	6
(4) 全 上 建造物補修費調	7
(5) 全 上 各科別人件費調	9
(6) 雇員及職工平均給料調	11
(7) 昭和五年度購入主要器具明細表	12
(8) 全 各科別消耗品 並 藥品使用高調	15
(9) 全 各科別破損器具調	16
(10) 全 廠内委託製作 並 修理費調	16
(11) 全 印刷所作業年報	18
4. 昭和五年度研究實驗報告類発行	19
(1) 研究實驗成績報告 (普通)	19
(2) 全 上 (秘)	20
(3) 研究雜報	21
(4) 調査報告	21
(5) 石炭液化法報告 (極秘)	22
(6) 其の他	22

5. 昭和五年度配員並異動調	23
(1) 配員表	23
(2) 判任官以上異動調	23
(3) 雇員以下異動調	26
6. 雇員以下出身學校並海陸軍出身者調	30
7. 昭和五年度研究部職工勤務關係調	30
(1) 遅刻者調	30
(2) 公務員傷者調	31
(3) 公私傷病休業者調	31
(4) 事故休業者調	31
8. 昭和五年度講演並雜誌會調	31
(1) 部内講演	31
(2) 部外講演	32
(3) 雜誌會	33
9. 昭和五年度主要行事調	35

(目次終)

昭和五年度作業經過

1. 一般經過概要

本年度作業は順調に進捗せり

研究主眼者には欧米出張中の秋田技師の帰朝せる外大なる異動なかりしも實驗室に於ける研究の進行に伴ひ其の成果を工業的の應用實驗に移す域に到達せるため人員の増加を必要とし昭和四年度末に於て135名なりし總員數は158名に増加せり。建物に於ては二三年來の懸案なりし實驗室、部長室、講演室の増築成り危険藥品庫の新設、藥品格納庫の模様替を實施せり

石炭液化實驗は實驗室に於て引續き工業的實驗に資する爲液化條件の研究を進むると共に高級分子酸素化合物及アスファルテンの水素添加、液化前に於ける原料炭の處理、等に就て研究せり

半工業的の石炭液化實驗裝置は兵工廠の協力に依り設備を了りたるを以て部分的に個々の裝置の性能試験を行ひ次に關聯裝置の能力を極し進んで全裝置試運転の運びに至る様鋭意努力せり

尚石炭液化廢瓦斯の分解、石炭の完全瓦斯化、水性瓦斯を原料とする水素の製造、メタノールの合成、航空船發動機用瓦斯燃料の製造に関する研究略完成せるを以て工業的實驗裝置新設の爲設計に着手せり

潤滑油に就ては使用限度決定に資する爲三千時間に亘

る長期の使用實驗を小型試驗^器にて行ひ其の性狀の變化を測定せり

重油噴霧實驗は引續き行ひ燃燒實驗を行ふ爲舞鶴工作部に委託製造せる燃燒試驗器及艦本式混燒缶の改造を行ひたり

石炭類の分析法制定に就ては石炭骸炭類分析法協議會と共同し成案を得其の決定發布を待つのみとなれり

又例年の如く霞浦航空隊整備學生に對しては三日間の講習を行ひ別表の通部外講演を施行せり

従業員の學術技能の向上を圖るため分析競技を行ひ、野津京大教授を聘して高分子化合物に關する講演を委嘱し又技師一名、技生一名を京都帝國大學に開催せられたる夏期講習會に出席せしめたり

2. 昭和五年度試驗檢査並實驗成績調

(1) 一般分析試驗に關する統計

種別 月別	石 炭		ピロリチ		油 類 性 狀	其の他 雜 件	計
	元素分析	工業分析	元素分析	工業分析			
四 月		24		9	11	60	104
五 月	8	45		19	14	108	194
六 月	11	46	5	8	9	142	221
七 月	1	27		3	19	68	118
八 月	2	33		4	25	66	130
九 月	15	41		3	20	90	169
十 月	10	39		19	30	99	197
十一月	13	20	8	12	6	110	169
十二月	3	32		20	16	101	172
大 一 月	1	15		7	5	54	82
二 月	26	27	4	10	4	138	209
三 月		12		10	28	55	105
計	90	361	17	124	187	1091	1870

(2) 石炭及煉炭試驗成績概要調

種 別	回 數	100°Cにて石炭 1gに付蒸發 水量平均 (g)	灰及クリンカー 總量平均 (%)	發熱量 (kcal)	記 事
第一種煉炭(北角型)	12	10.5	6.9	7943	}
第一種試製煉炭(4)	6	10.5	6.4	7887	

第一種煉炭(南卵型)	7	10.7	7.3	8,034	本廠生産品
第一種試製煉炭(〃)	4	10.5	7.1	7,900	
第二種煉炭(〃)	10	9.9	12.1	7,531	
第二種試製煉炭(〃)	2	9.5	11.1	7,553	
第二種煉炭(東角型)	12	9.5	13.1	7,470	江門市嘉穂鋸業株式會社依頼
第一種煉炭(〃)	1	11.0	6.5	7,963	
石炭(塊炭)	1	10.1	8.0		煉炭部依頼
「マセック」型煉炭	3	9.8	9.2	7,775	
「ホカホン」タンズ炭	1	9.4	8.6	8,107	軍艦殘間依頼
「カーボネート」炭 75% 「ブラック」ヤマト炭 25%	1	8.7	13.8	7,157	
「ニューリバー」炭	1	10.7	7.9	8,103	"
「ウエルス」炭	1	10.0	11.7	7,608	

3. 豫算

(1) 昭和五年度豫算決算調

科目	令示(配分)予算	豫算使用高	豫算残高	記事
總費 兵要及技術圖書費	1,466,000	1,459,970	6,030	
内 國 旅 費	2,222,020	2,206,750	15,270	
建造物 新 營 費	17,250,000	18,076,500	826,500	
補修 修繕費	1,000,000	1,690,920	690,920	
計	18,250,000	19,767,420	1,517,420	外修理工場 3,960,460 外共運物品 1,312,460
器具機械補修	15,247,000	15,046,387	230,613	
職工人夫給	18,041,000	18,012,780	28,220	内 人夫賃 232,230 旅費 112,660

動力及需品費	4,884,000	1,852,114	3,031,886	
試 驗 及 研 究 費	材料物品	37,000,000	31,194,181	5,805,819
	消耗品	26,300,000	26,285,541	14,459
	圖書	6,446,000	9,087,270	2,641,270
	計	69,746,000	66,566,992	3,179,008
完 費	試驗研究委託費	660,000	650,904	9,096
	職工人夫	28,400,000	27,217,170	2,182,830
	備給	23,610,000	22,042,270	15,870
	慰勞金	0	1,551,860	
計	計	53,010,000	50,811,300	2,198,700
	合計	123,416,000	118,029,196	5,386,804
甲 受 託 研 究 費	材料物品	101,510,000	71,962,569	29,547,431
	職工人夫	21,315,000	19,325,010	1,989,990
	旅費	2,000,000	1,730,250	269,750
	報酬金	1,875,000	1,660,560	214,440
	備給	5,700,000	5,171,570	528,430
	雜件費	1,620,000	1,525,650	94,350
乙 受 託 研 究 費	慰勞金	0	611,220	611,220
	合計	134,020,000	101,986,829	32,033,171
總 計	318,376,020	279,161,446	39,214,574	

外共運物品 4,900,460
外修理工場 4,000,460

内旅費 117,410

修理工場 15,650,460
内旅費 15,200,460
人夫賃 2,318,500

(2) 昭和五年度出張旅費調

科目	使用別	高等官	判任官	雇員	職工	計
内國旅費		1849 590	124 660	232 500	0	2206 750
職工人夫給		0	0	0	112 660	112 660
試験及研究費 職工人夫		0	0	0	117 110	117 110
受託研究費旅費	部内者 842 010 部外者 619 100	部内者 106 600 部外者 68 200		94 340	0	1730 250
職工人夫		0	0	0	95 200	95 200
部外旅費		435 900	0	0	0	435 900
計		3746 600	299 460	326 840	324 970	4697 870

備考. 1. 内國旅費高等官使用額中舞臺工芸各機關
中佐へ支拂、分 61,740 7 百 4

(3) 昭和五年度圖書費調

科目	目	金額
觀 費	圖書及印刷費	534 880
	兵要及技術圖書費	1459 970
試験及研究費	材料物品 (圖書)	9087 270
雜給及雜費	雜件費 (見習職工教育費)	117 970
計		11,200 090

内 訳

部 別	内外國雜誌	レバツク ナンバー	圖書費 (俾行本)	製本費	器具費	消耗品費	計
研究部	2,356 29	4,340 30	3,707 39	1,011 61	2,140 95	293 180	13,849 72
煉炭部	120 94		40 43				161 37
製油部	130 97		23 00				153 97
會計部	35 00		15 70				50 70
醫務部	141 34		61 57				202 91
副 官	44 85		15 0				46 35
練習所	0		180 81				180 81
計	2829 39	4340 30	4030 40	1011 61	2,140 95	293 18	14,645 83

(4) 昭和五年度建造物補修費調

(イ) 新 營

建物 番 号	名 稱	構 造	數量	價 格	竣工 年月	記 事
215	危險藥品庫	煉瓦造	9.坪	1228 300	昭和 5-12-27	新營
12	分析所	煉瓦造二階 及平家	建坪101.27 延坪174.00	16,138 20	6-2-11	台保改増築
計				17,366 50		

(ロ) 工 作 物

財産 番 号	名 稱	構 造	數量	價 格	竣工 年月	記 事
917	分析所引込水道	引込水道	14 所	330 000	昭和 6-2-11	新設
918	淨化裝置	煉瓦及鉄筋 混凝土	14 所	380 000	6-2-11	新設
計				710 000		

(1) 修繕

建物 番	名 稱	價 格	竣工月日	記 事
12	分析所	44,500	昭和5-6-27	修繕
42	第一實驗場	10,000	"	"
154	圖書庫	3,700	"	"
34	印刷所	10,700	"	"
42	第一實驗場	258,000	"6-1-28	模様替
178	第二實驗場	23,000	"6-2-23	修繕
179	第三實驗場	18,900	"	"
162	薬品格納庫	729,120	"6-3-12	模様替
12	分析所	593,000	"6-2-28	"
	計	1,690,920		
	總 計	19,767,420		

(5) 昭和五年度各科別人件費調

科 別	雇 員 - 給			
	本 給	手 當	慰 勞 金	計
燃料の實驗研究	8,338,310	488,970	290,160	5,117,440
燃料の實用實驗	3,354,200	547,270	258,300	4,159,770
潤滑油の研究實驗	1,380,480	184,480	118,300	1,683,260
石炭液化の研究實驗	5,146,260	841,880	436,220	6,424,360
石炭低温乾溜	830,400	139,680	69,600	1,039,680
航空船用瓦斯燃料の製造	96,600	13,120	0	109,720
燃料類の試験検査	846,400	121,760	122,000	1,090,160
資源調査	2,048,000	318,570	172,250	2,538,820
石炭瓦斯製造	0	0	0	0
工 務	3,434,780	465,910	268,600	4,169,290
教 習 所	2,183,200	241,720	192,050	2,616,970
見習職工	0	0	0	0
印 刷 所	721,400	149,440	60,600	931,440
其の他(一般的使用)	0	0	0	0
計	24,380,030	3,512,800	1,988,080	29,880,910

(1) 修 繕

建物 番 号	名 稱	價 格	竣工月日	記 事
12	分 析 所	44,500	昭和5-6-27	修 繕
42	第一實驗場	10,000	"	"
194	圖 書 庫	3,700	"	"
34	印 刷 所	10,700	"	"
42	第一實驗場	258,000	"6-1-28	模 様 替
178	第二實驗場	23,000	"6-2-23	修 繕
199	第三實驗場	18,900	"	"
162	藥品格納庫	729,120	"6-3-12	模 様 替
12	分 析 所	593,000	"6-2-28	"
	計	1,690,920		
	總 計	19,767,420		

(5) 昭和五年度各科别人件費調

科 別	雇 員 - 給				職 工	
	本 給	手 當	慰 勞 金	計	在 時 間	増 販 費
燃料の實驗研究	4,338,310	488,970	290,160	5,117,440	5,307,540	95,750
燃料の實用實驗	3,354,200	547,270	258,300	4,159,770	6,577,080	125,250
潤滑油の研究實驗	1,380,480	184,480	118,300	1,683,260	2,061,160	9,510
石炭液化の研究實驗	5,146,260	841,880	436,220	6,424,360	13,131,460	443,430
石炭低温乾溜	830,400	139,680	69,600	1,039,680	2,191,590	101,410
航空船用瓦斯燃料の製造	96,600	13,120	0	109,720	734,420	3,830
燃料類の試験検査	846,400	121,760	122,000	1,090,160	6,143,050	38,480
資源調査	2,048,000	318,570	172,250	2,538,820	1,292,370	5,100
石炭瓦斯製造	0	0	0	0	1,110,600	221,750
工 務	3,434,780	465,910	268,600	4,169,290	1,256,960	35,120
教 習 所	2,183,200	241,720	192,050	2,616,970	472,250	700
見 習 職 工	0	0	0	0	1,924,050	0
印 刷 所	721,400	149,440	60,600	931,440	2,203,130	162,330
其の他(一般的使用)	0	0	0	0	923,650	188,190
計	24,380,030	3,512,800	1,988,080	29,880,910	45,329,310	1,430,850

(5) 昭和五年度各科別人件費調

科 別	雇 員 給				職 工 人 夫 給					合 計
	本 給	手 當	慰 勞 金	計	職 工	人 夫	給	計	人 夫 給	
燃料の實驗研究	4,338 ^円 310	488 ^円 970	290 ^円 160	5,117 ^円 440	5,307 ^円 540	95 ^円 750	1,628 ^円 020	7,031 ^円 310	0	12,148 ^円 750
燃料の實用實驗	3,354 ^円 200	547 ^円 270	258 ^円 300	4,159 ^円 770	6,577 ^円 080	125 ^円 250	1,958 ^円 760	8,661 ^円 090	30 ^円 160	12,851 ^円 020
潤滑油の研究實驗	1,380 ^円 480	184 ^円 480	118 ^円 300	1,683 ^円 260	2,061 ^円 160	9 ^円 510	254 ^円 180	2,324 ^円 850	0	4,008 ^円 110
石炭液化の研究實驗	5,146 ^円 260	841 ^円 880	436 ^円 220	6,424 ^円 360	13,131 ^円 460	443 ^円 430	4,352 ^円 090	17,926 ^円 980	2,318 ^円 540	26,669 ^円 880
石炭低温乾溜	830 ^円 400	139 ^円 680	69 ^円 600	1,039 ^円 680	2,191 ^円 590	101 ^円 410	495 ^円 840	2,788 ^円 840	212 ^円 040	4,040 ^円 560
航空船用瓦斯燃料の製造	96 ^円 600	13 ^円 120	0	109 ^円 720	734 ^円 420	3 ^円 830	151 ^円 940	890 ^円 190	0	999 ^円 910
燃料類の試験検査	846 ^円 400	121 ^円 760	122 ^円 000	1,090 ^円 160	6,143 ^円 050	38 ^円 480	1,685 ^円 270	7,866 ^円 800	0	8,956 ^円 960
資源調査	2,048 ^円 000	318 ^円 570	172 ^円 250	2,538 ^円 820	1,292 ^円 370	5 ^円 100	381 ^円 900	1,679 ^円 370	37 ^円 800	4,255 ^円 990
石炭瓦斯製造	0	0	0	0	1,110 ^円 600	221 ^円 750	515 ^円 500	1,847 ^円 850	0	1,847 ^円 850
工 務	3,434 ^円 780	465 ^円 910	268 ^円 600	4,169 ^円 290	1,256 ^円 960	35 ^円 120	408 ^円 570	1,700 ^円 650	0	5,869 ^円 940
教 習 所	2,183 ^円 200	241 ^円 720	192 ^円 050	2,616 ^円 970	472 ^円 250	700	186 ^円 580	659 ^円 530	0	3,276 ^円 500
見 習 職 工	0	0	0	0	1,924 ^円 050	0	191 ^円 270	2,115 ^円 320	0	2,115 ^円 320
印 刷 所	721 ^円 400	149 ^円 440	60 ^円 600	931 ^円 440	2,203 ^円 130	162 ^円 330	666 ^円 290	3,031 ^円 750	114 ^円 480	4,077 ^円 670
其の他(一般的使用)	0	0	0	0	923 ^円 650	188 ^円 190	277 ^円 820	1,389 ^円 660	1,931 ^円 970	3,321 ^円 630
計	24,380 ^円 030	3,512 ^円 800	1,988 ^円 080	29,880 ^円 910	45,329 ^円 310	1,430 ^円 850	13,154 ^円 030	59,914 ^円 190	4,644 ^円 990	94,440 ^円 090

記事

修 繕

"

"

"

模 様 替

修 繕

"

模 様 替

"

職 工 人 夫 給					合 計
職 工	人 夫	給	給	給	
定 時 間	增 服 業	附 隨 工 費	計	人 夫 給	
5,307.540	95.750	1,628.020	7,031.310	0	12,148.750
6,577.080	125.250	1,958.760	8,661.090	30.160	12,851.020
2,061.160	9.510	254.180	2,324.850	0	4,008.110
13,131.460	443.430	4,352.090	17,926.980	2,318.540	26,669.880
2,191.590	101.410	495.840	2,788.840	212.040	4,040.560
734.420	3.830	151.940	890.190	0	999.910
6,143.050	38.480	1,685.270	7,866.800	0	8,956.960
1,292.370	5.100	381.900	1,679.370	37.800	4,255.990
1,110.600	221.750	515.500	1,847.850	0	1,847.850
1,256.960	35.120	408.570	1,700.650	0	5,869.940
472.250	700	186.580	659.530	0	3,276.500
1,924.050	0	191.270	2,115.320	0	2,115.320
2,203.130	162.330	666.290	3,031.750	114.480	4,077.670
923.650	188.190	277.820	1,389.660	1,931.970	3,321.630
45,329.310	1,430.850	13,154.030	59,914.190	4,644.990	94,440.090

(6) 雇員及職工平均給料調

(昭和六年三月三十一日調)

(1) 雇員

一人月額	員數	一人月額	員數	一人月額	員數	一人平均月額
85.000	1	61.100	2	56.700	1	60.060
74.100	1	60.600	3	55.700	1	
69.600	1	59.600	1	55.000	1	
69.400	1	58.700	1	54.700	1	
68.900	2	58.600	1	53.100	1	
66.900	1	58.200	1	52.500	1	
64.400	1	57.850	1	50.600	3	
63.600	2	57.600	1	47.350	1	
63.100	1	57.200	1	46.100	1	

(2) 職工

一人日額	員數	一人日額	員數	一人日額	員數	平均賃錢
3.700	1	1.800	6	1.250	1	1.611
2.900	1	1.750	12	1.200	4	
2.500	3	1.700	6	1.150	3	
2.400	1	1.650	4	1.100	1	
2.200	5	1.600	1	1.000	1	
2.100	2	1.550	3	850	4	
2.050	2	1.500	7	600	3	
2.000	3	1.450	10	500	5	
1.900	8	1.400	2			
1.850	8	1.350	2			

(7)昭和五年度購入主要器具明細表 (100円以上)

品名	稱呼	数量	支辨科目	要目	製造所名	代價	使用料別
真空唧筒	個	1	試験及研究費	センサー式 使用圧力 0.1 m.m. 迄	島津製作所	210 000	研
水銀唧筒	"	1	"	レギュレーションポンプ 鋼製 約 200 瓦の水銀 にて 10-6 m.m. の真空を 保ち得	"	188 500	"
油槽	"	5	"	容量 2,000 升 水圧 200 封度	山本製作所	837 000	実一
化学天秤	"	1	"	秤量 200 瓦 感量 1 瓦 実感量 0.5 瓦	宇谷製衡所	450 140	研
石英寒暖計	"	1	"	刻度 0℃ - 100℃ 1 度刻、全長 42 釐	島津製作所	110 000	"
分光器	"	1	"	「マルテンス」懐中分光器 試験管 6 個 比較「70」 「24」波長スケール反射 鏡付	田中商事	175 000	"
界面張力測定器	"	1	"	液体の空气中に於ける 表面張力及相互に溶解 せざる二種の液体間の 界面張力を測定	米国セントラル サイエンス社	470 000	"
内火式「ダイセル」 機関	"	1	"	直立無気噴射式「ダイセル」 機械 簡敷 1 個 毎分回転数 1000-1200 発生馬力 8-10	獨國 「ユンケル」社	1865 000	実一
邦文「タイロ」 ライター	"	1	"	標準型 甲號 (H 式)	日本「タイロ」 「タイ」株式会社	252 000	工務
指圧器	"	1	"	600 回転に適す 基準型外装 簡敷式	獨國 「マイハップ」社	304 550	実一
熱量計用 爆燃筒	"	1	"	「バルテロー」氏熱量計 用爆燃筒 耐酸性 鋼材	千野製作所	176 040	研
檢電器	"	1	"	「シユミット」氏水の射能 測定用檢電器	島津製作所	397 200	"
抵抗器	"	1	"	複式加減抵抗器 全抵抗 30 オーム 最大電 流 50 A. 可換式 15 個 「10」分 2 組付	千野製作所	162 000	"
加圧釜	"	1	"	振盪式 内容 100 C.C. 使用圧力 300 気圧	西製作所	600 000	研特

恒温槽	個	1	試験及研究費	温度範囲 摄氏 40 度以上 200 度 電圧交流 (单相) 200-220 V. 槽の大きさ 30 釐立方 所要温度に於ける調 節度 二分の一度	千野製作所	380 000	研
電気滴定器	"	1	"	柴田氏電気滴定装置 普通用電極「ビュレット」 30 C.C. 波濺用電極 「ビュレット」30 C.C. 付	島津製作所	171 500	"
潤滑油 攪拌装置	"	1	"	油槽は外槽内槽よりな る。攪拌装置は直流 110 ボルト 18 馬力 毎分 1400 回転の電動 機により「70」ロペラーを 回転し油槽内を一定 温度を保つ	島津製作所	352 440	実一
瓦斯分析器	"	1	"	炭化水素類の液化精密 瓦斯分析装置にして其 の精確度 0.2% のもの	島津製作所	574 280	"
石版機械	組	1	器具機械	動力機、石版機械 「鹿野」型 41" x 26 1/2"	中田宇仁製 作所	250 000	印
空気圧縮唧筒	個	1	"	圧力 300 気圧 毎時空気 15 立方以上を 毎平方釐、300 釐以上 に圧搾し得	吳海軍工廠 軍需部	3,700 000	研
高熱檢温器	個	4	"	目盛 0-1600 °C 10 度目 Pt Pt-RH 「カッポル」コールドジャンク 「レオン」所着 3 個 " 0-1200 °C 1 個		1,440 000	研
熱量計	個	2	"	「ユニオン」カリメーター	島津製作所	287 970	"
石炭乾溜 試験器	"	2	"	乾溜温度 最高 950 ° 交流 110 V. 試験料は 1 瓦を以て行ふ	"	506 000	"
電気炉	"	1	"	上器温度 摄氏 1500 度 内管の大きさ 直径 3 釐 長さ 30 釐 型式 水平垂直両用 電圧 (交流) 220 V. 電流 2.7 A.	千野製作所	210 000	"

自記高温計	個	3	器具機械	前面接續型、四ヶ所接續型、交流 200V、50-60 サイクル、使用温度 0°C-600°C、10度刻、分劃中の2.5種	北辰電氣製作所	2,980,000	研
内火式 ダイヤル機関	組	1	試験及 研究費	四サイクル、エアーレスインジェクション式、25馬力、気筒径 200 耗、行程 320 耗、回転数 毎分 430	新潟鉄工所	4,091,800	実、一
角面測温計	個	1	器具機械	ユニカー式、サフェースハロメータ	島津製作所	142,100	研
高温計検定 器	"	1	"	電気炉、円筒型、廻転型、TR-P 白金、リボン、最高 400 度、加熱管内径 70 耗、長さ 220 耗、容量約 1 KW、配電盤、交流 220V	北辰電氣製作所	335,000	"
油圧唧筒 機械	"	1	受託	吐出能力(毎時) 10 立方尺、油圧力(毎平方尺) 100 耗、唧子直径 80 耗、行程 200 耗、回転(毎時) 75 回	三井鉱山株式會社	3,521,180	実、特
瓦斯計測器	"	1	"	水素圧搾機吸入管に取付け、除菌するもの、毎時自由瓦斯 200 立方尺	神戸製鋼所	1,380,000	"
疏水溜	"	1	"	水素圧搾機附属気蓄器内の疏水と瓦斯を分離するもの、分離した瓦斯は再び水素圧搾機に吸入する、容積耐圧最大 10 気圧	神戸製作所	294,000	"
瓦斯貯槽	"	1	"	1,000 立方尺、(水柱最大 4"-2.5")、圧力の調整可能	大塚鉄工所	13,182,820	"
"	"	1	"	400 立方尺、(水柱最大 4"-2.5")	"	7,966,880	"
積算電力計	"	1	"	交流配電盤中三相平衡、並、不平衡及誘導及無誘導負荷のものにして寸法形状 3300V、300A、50 サイクル	横河電氣株式會社	109,350	"

三相指示 電力計	個	1	受託	交流配電盤用、水面、エッチング型、三相交流、50 サイクル、3,300V、300A、目盛 1800 K.W.	横河電氣株式會社	166,400	実、特
加圧釜	"	5	"	圓轉式加圧釜、内容 2.4 立	兵工廠	2,173,350	研、特
高熱検温器	"	13	"	標尺 0-600 度、細小目盛、" 0-400 度 (2個)、" 0-1200 度 (7個)	北辰電氣製作所	2,961,800	実、特
瓦斯比重 天秤	"	1	試験及 研究費		森川惣助製作所	335,000	研
メッガー	"	1	受託	500V、100 ヶブーム	岩田商會	180,000	実、特
高熱検温器	"	2	"	0-1200 度、(細小目盛 5 度)	島津製作所	604,800	"

(8) 昭和五年度各科別消耗品並藥品使用高調

科 別	材料消耗品	藥 品	合 計	記 事
燃料の實驗室研究	3,695,746	2,348,636	6,044,382	
燃料の實用實驗	3,124,140	460,587	3,584,727	
潤滑油の研究實驗	455,543	434,183	889,726	
石炭液化の研究實驗	3,520,877	949,824	4,470,701	
石炭低温乾溜	292,886	3,798	296,684	
航空船用瓦斯燃料の製造	201,936	575	202,511	
燃料類の試験検査	3,163,922	551,823	3,715,745	
資 環 調 査	511,027	0	511,027	
委 託 研 究	65,592	412,514	478,106	

石炭瓦斯製造	3,507	158	0		3,507	158
工 務	302	428	0		302	428
教 習 所	21	831	0		21	831
見習職工	0		0		0	
印 刷 所	2,922	314	0		2,922	314
其 他 (一般的使用)	453	056	1,507	662	1,960	718
合 計	22,238	456	6,669	602	28,908	058

(9) 昭和五年度各科別破損器具調

科 別	金 額	記 事
研 究 科	8,516 ^四 757	固定資本器具を含む(加圧釜)
實 験 科	9,751 315	同上 (油水分離器、瓦斯計量器、ウオシントン ⁷ 即商、ターボ蒸留機械、縮水加熱器)
印 刷 所	5 800	
合 計	18,273 872	

(10) 昭和五年度廠内委託製作並修理費調

(1) 委託製作

工場別	工 費	材料費	附属費	計
研 究 科	413 ^四 751	273 ^四 280	185 ^四 700	872 ^四 731
工 務	653 811	1,476 864	288 900	2,419 575
實 験 科 一 班	724 730	409 128	320 300	1,454 158
二 班	103 370	59 237	48 800	211 407
教 習 所	44 420	65 877	18 500	128 797

印 刷 所	67 130	90 163	25 500	182 793
計	2,007 212	2,374 549	887 700	5,269 461

(四) 部内製作

工場別	工 費	材料費	附属費	計
實驗科一班	21 ^四 280	44 ^四 825	0 ^四	66 ^四 105

(ハ) 修理費調

工場別	工 費	材料費	附属費	計
研 究 科	257 ^四 410	79 ^四 572	126 ^四 900	463 ^四 882
實驗科一班	328 050	86 955	149 700	564 705
實驗科二班	184 070	344 393	86 300	614 763
計	769 530	410 920	362 900	1,643 350

(ニ) 雜修理費調

工場別	工 費	材料費	附属費	計
研 究 科	1,062 ^四 345	413 ^五 075	476 ^四 700	2,007 ^四 425
研究科(日常作業)	191 830	60 812	90 000	342 642
實驗科一班	1,177 470	627 267	518 200	2,322 937
工務圖書倉庫	418 980	155 220	174 900	749 100
特 別 班	150 870	118 239	46 000	315 109
實驗科二班	107 020	80 378	49 400	236 798
教 習 所	137 670	100 599	62 200	300 469
印 刷 所	142 890	48 291	67 300	258 481
計	3,389 075	1,659 186	1,484 700	6,532 961

備考 赤字は提供材料

(ホ) 据付、改造、移轉費調

工場別	工費	材料費	附屬費	計
實驗科一班	593 ^円 960	373 ^円 387 260 192	276 ^円 500	1,504 ^円 049
日常作業	32 670	12 966	15 000	60 636
印刷所	44 420	21 962	21 000	87 382
教習所	24 080	15 280	12 000	51 360
實驗科二班	30 600	5 248	15 500	51 348
計	725 730	689 045	340 000	1,754 775

(ハ) 受託研究費(甲)ニ依リ製作、修理、雜修理、据付費調

種別	工費	材料費	附屬費	計
委託製作	6,615 ^円 740	7,130 ^円 421 7,122 283	3,412 ^円 183	24,280 ^円 627
部内製作	90 000	394 672	0	484 672
器具修理	621 085	352 509	288 700	1,262 294
雜修理	926 452	226 ^円 912 612 169	348 600	2,114 733
据付費	2,066 818	10,869 ^円 786 923 707	917 405	14,777 716
計	10,320 095	27,633 059	4,966 888	42,920 042

備考 赤字は提供材料

(11) 昭和五年度印刷所作業年報

要求元	件数	部数	枚数	頁数	紙價
副官部	395	165,676	2,123	978,239	236 ^円 520
煉炭部	75	123,870	580	258,944	259 600
製油部	74	68,785	565	204,207	126 760
研究部	132	118,486	2,400	1,100,457	704 770

會計部	108	245,330	938	934,826	529 430
醫務部	24	16,700	175	38,610	20 970
修理部	31	40,090	385	191,775	86 760
合計	839	778,937	7,166	3,707,058	1,964 810
一月平均	70	64,911	597	308,921	163 230
人件費					3398 530
動力及需品					926 740
一頁印刷費					00169

4. 昭和五年度研究實驗報告類發行

(1) 研究實驗成績報告(普通)

発行番號	題 目	発行年月	主任研究實驗者
第四二號	低温乾溜實驗報告(第七報) 朝鮮褐炭の低温乾溜 實驗報告(其二)	5~7	海軍機關少佐 玉城直吉 同 並河 孝 海軍技師 山口昌三 海軍技手 島村 浩 囑託 米谷省一
第四三號	同 上(第八報) 撫順炭の乾溜	5~8	海軍機關少佐 並河 孝 海軍技師 山口昌三 海軍技手 島村 浩 囑託 米谷省一
第四四號	石炭試驗法ニ就て(其二) 濕分定量法	5~8	海軍技師 小川 亨 囑託 住本誠治 海軍技手 吉田大作
第四五號	1,2-エーテルの研究(第二報) 1,2-エーテルの熱分解	5~8	工 中井利三郎

第46號	粉炭を利用せる瓦斯発生炉の研究	5~12	海軍機関少佐 並河 孝 海軍技師 高村 浩 技 生 山本正雄
第47號	石炭低温乾燥研究(第二報)	6~2	海軍技師 山口昌三 嘱 託 米谷省一 技 生 北村 台
第48號	高压水素下に於ける芳香族 「エーテル」類の熱分解(第一報) 「シラニールエーテル」及「シラニレン オキサイド」	6~2	海軍技師 小川 亨
第49號	同 上 (第二報) 「シラニレンオキサイド」の脱水 反應に就て	6~3	海軍技師 小川 亨 海軍技師 高橋功夫
第50號	高温高压下に於て芳香族炭化 水素に還元「ニッケル」及水素の 作用	6~3	海軍技師 小川 亨 海軍機関少佐 横田俊雄

(2) 同 上 (秘)

秘 第1號	「ロッキング」に関する實驗報告 「シトラエテル」鉛の影響に就て 7件「シトラエテル」鉛及其の燃 焼瓦斯の毒性	5~9	海軍技師 秋田 稔 嘱 託 中西 卓 技 生 小西治市 同 杉原秀夫
秘 第2號	揮発油品位簡易判定法に關す る實驗報告	5~9	海軍技師 秋田 稔 原田 巖
秘 第3號	揮発油類の密閉貯藏に關す る實驗報告	5~11	海軍技師 秋田 稔 技 生 小西治市 原田 巖 西田安吉
秘 第4號	石油中の芳香族炭化水素に 就て	6~2	嘱 託 山本利夫 久保作平
秘 第5號	航空機用潤滑油として自統 油に關する實驗報告	6~2	海軍機関中佐 別府良三 嘱 託 景平一雄 海軍技師 中西 卓

秘 第6號	台湾産原油より得らるる 航空三號揮発油に關する 實驗報告	6~3	海軍技師 秋田 稔 海軍技師 中西 卓 技 生 小西治市 同 杉原秀夫
----------	------------------------------------	-----	--

(3) 研究雜報

第13號	輕質油及發動機用燃料中の 不能和炭化水素及芳香族炭化水素 の測定法	5~5	官崎正雄
第14號	購入石炭及見本炭分析成績表 (昭和四年度) 購入原油及重油試験成績表 (昭和四年度)	5~9	海軍燃料廠
第15號	石炭化學の諸問題	5~9	技 生 棟近 實
第16號	高压水素による「フェノール」類の 接觸的還元並水素添加に就て	6~2	海軍技師 小川 亨
	高压水素下に於ける純有機化合物 の熱反應		妹尾英孝
	石炭灰化の一改良法		嘱 託 米谷省一
	製油精製装置特に分解装置等の主要 部分の腐蝕防止としての非金屬性 塗裝(内部)		海軍技師 緒方秀雄
	金屬酸化物の水素瓦斯による 還元に就て		嘱 託 佐本誠治

(4) 調査報告

第7號	燃 燒 に 就 て	5~8	技 生 磯谷近治
-----	-----------	-----	----------

(5) 石炭液化法報告 (極秘)

特第17號	撫順炭液化率に就て	5~4	海軍技師 小川 亨 海軍技手 高橋功夫
特第18號	石炭液化の反應機構に關する研究(第1報) 高压水素下に於ける、エーテル類の熱分解	6~2	同 上
	石炭液化實驗裝置工事經過概要 附水素製造及水素回收裝置に就て	5-11	海軍機關大佐 河瀬 真

(6) 其の他

	潤滑油に就て	5~7	囑託 景平一雄
	揮発油の性狀	5~7	海軍技師 秋田 稔
	飛行船發動機用燃料瓦斯	5~7	海軍機關中佐 嘉納吉彦
	石油類需給統計表	5~7	海軍機關中佐 別府良三
	石炭低温乾溜實驗概要	5~9	海軍機關中佐 並河 孝
	燃料問題の現状	5-12	海軍機關中佐 別府良三

5. 昭和五年度配員結果動調

(1) 配員表 (昭和五年十二月二十日調)

科 別	高等官	判任官	雇員 (指生)	職 工				
				工 手	職 手	並職工	學習工	計
部 長	/							
工 務 係	庶務、工務		4			1	5	4
	倉 庫	1(兼)	1		1			1
	印 刷		1		印刷工	4		5
調 査 科	1(兼)		3			3		3
研 究 科	第一班	2(兼)	1			6	2	8
	第二班	3(兼)	5			9	3	12
	第三班	3	1	1	2	3	3	9
	第四班	1(兼)	2		1	12	1	14
	特別班	2(兼)	2		1	2		3
實 験 科	第一班	3(兼)	6		6	10		16
	特別班 第一部	1	3		4	17		21
	特別班 第二部	1	2		3	5		8
教 習 所			3			1		1
計	11	6	34	1	19	73	14	107

備考 本表以外に常時眼務の兼務部員1、及
兼務部員4あり

(2) 判任官以上異動調

年月日	事 項	官 氏 名
5-4-1	任海軍技手	囑託 中西 卓

5-4-1	給六級俸	嘱託 中西 卓
"	海軍燃料廠附ヲ命ス	海軍技手 中西 卓
"	實驗科係員ヲ命ス	" "
8-1	第三回海軍勞働統計實地調査係長補助ヲ命ス	海軍機関大佐子爵 河瀬 真
"	第三回海軍勞働統計實地調査係員ヲ命ス	海軍機関中佐 別府 良三
"	全 上 係員補助ヲ命ス	海軍技手 吉弘 太作
"	全 上	" 高橋 功大
"	全 上	" 中西 卓
"	全 上	" 田島 悦郎
8-14	海軍燃料廠に於ける燃料に関する業務を嘱託す 但し報酬月額百円を給し部内限り判任官として待遇せらる	技 生 藤本 春季
9-30	陸軍高等官四等	海軍技師 秋田 穰
"	賜八級俸	" 山口 昌三
"	賜九級俸	" 藤尾 誓
"	賜十級俸	" 江口 孝
"	給月俸七十圓	海軍技手 田島 悦郎
10-1	自今報酬年額千六百圓を贈與す	嘱託 住本 誠昭
"	"	" 岸平 一雄
11-1	補兵海軍々需部々員	海軍燃料廠煉炭部々員兼 研究部々員 海軍機関少佐 宮下 博雄
"	補海軍燃料廠煉炭部兼研究部々員	綾波機関長兼分隊長 海軍機関少佐 高橋 伊三次
"	歐米出張中の處構濱帰着	海軍技師 秋田 穰
"	敘正六位	從六位 秋田 穰

5-11-7	實驗科分担ヲ命ス	海軍機関少佐 高橋 伊三次
"	石炭液化法研究委員會委員ヲ命ス	" "
11-10	退 廳	" 宮下 博雄
11-28	歐米出張中の處帰廳	海軍技師 秋田 穰
"	兼實驗科分担(第一班主任)ヲ免ス	研究科分担兼研究部工務主任 實驗科分担(第一班主任) 海軍機関中佐 別府 良三
"	實驗科分担(第一班主任)兼研究科分担(第二班)ヲ命ス	研究科分担(第二班) 海軍技師 秋田 穰
12-1	任海軍機関中佐	海軍機関少佐 從六位勲六等 嘉納 吉彦
"	任海軍機関少佐	海軍機関大尉 從六位勲六等 赤羽 銀次郎
6-1-6	石炭液化法研究委員會委員附ヲ命ス	嘱託 藤本 春季
1-16	敘正六位	從六位勲六等 嘉納 吉彦
1-21	敘勲五等授瑞寶章	海軍機関中佐 嘉納 吉彦
3-2	胃潰瘍に依り三月二日より二十一日間徳山町慶万官舎に引入療養	海軍機関大佐子爵 河瀬 真
3-23	引入療養中の處三月二十三日全治出勤	" "
3-31	陸軍高等官五等	海軍技師 下田 健市

(3) 雇員以下異動調

學校別	雇 傭 入			解 雇 傭		
	雇員	職工	記 事	雇員	職工	記 事
帝國大學				1		嘱託(判任官待遇)
高等工業	1	1	雇員は職工より転雇 他部職工傭替		1	
工業學校	3	5	雇員は職工より転雇 職工一名他部より傭替		3	
中學校		2	他部職工一名傭替			
其の他	1	15	雇員は職工より転雇 職工九名他部より傭替		3	
見習工		9	職工四名他部より傭替		3	
計	5	32		1	10	

年月日	事 項	職 氏 名
5-4-1	實驗工に傭替	分析工 白井 勇
"	刷版工に傭替	雜 工 伊藤逸雄
"	實驗工に試傭 日給一円五錢	藤田重美
"	記録工に傭替	刷版工 中村一夫
"	技生を命し月給六十二円五十錢ヲ給ス	分析工 土井 茂
"	研究部 ^研 を命す	技 生 土井 茂
4	見習職工に試傭 日給五十錢	宇田秋藏
"	"	松本 清
"	"	重岡 祐
"	"	深見 保
"	"	神田肇一
"	見習職工成業に付分析工に採用 日給一円二十錢	見習工 内山 茂夫
"	日給一円十五錢	" 原田梅雄

5-4-4	佐陸軍歩兵少尉 (昭和四年三月三十日)	技 生 北村 吉
11	實驗工に傭入 日給一円六十錢	石田佐一
21	實驗工に傭入 " 一円五錢	藤田重美
"	見習職工に傭入 " 五十錢	宇田秋藏
"	"	松本 清
"	"	重岡 祐
"	"	深見 保
"	"	神田肇一
21	分析手を命す	分析工 明石春二
"	"	田中政雄
"	實驗手を命す	實驗工 金子朱治
"	刷版工伍長を命す	刷版工 兼重太郎
6-2	技生を命し月給五十二円五十錢ヲ給ス	分析工 中村正美
"	" " 五十円ヲ給ス	實驗手 桑原武夫
"	"	分析手 棟近 薫
"	"	藤井軍治
"	研究部附を命す	技 生 中村正美
"	"	桑原武夫
"	"	棟近 薫
"	"	藤井軍治
9	製油部より傭替	分析工 藤井中美
14	實驗工に試傭入 日給一円四十五錢	今西宗八
21	"	井原繁雄
"	分析工に試傭 " 一円五十錢	田中 保
25	實驗工に試傭 " 一円四十五錢	佐藤 乙一

5-11-3	分析工に備入	日給一円五十銭	田中 保
"	實驗工に備入	" 一円五十銭	井原繁雄
"	"	" 一円四十五銭	今西宗八
"	"	"	佐藤乙一
14	煉炭部より備替	" 一円十五銭	實驗工 池上勇一
15	依頼解僱		技生 白井 勇
8-1	為替回海軍労働統計実地調査係員補助命		技生 近藤 一
9-1	煉炭部より備替	日給二円二十銭	" 澄田米三
10-4	誓約違反に依る解僱		見習職工 橋本三郎
"	工務規則第二十八條第八号前段該當に依る解僱		實驗工 河村幸一
6	煉炭部より備替	日給一円十五銭	" 末光敏文
8	"	" 九十五銭	" 高橋 誠
21	見習職工教習所教員を命す		技生 白井 章
"	見習職工教習所教員を免す		" 福谷米輔
11-17	自十一月十七日 至十一月二十日 御親聞のため岡山市へ派遣		分析工 本居 昇
"	"		" 藤井中美
"	"		" 林 茂人
"	"		實驗工 末光敏文
"	分析工に試備	日給一円三十銭	村橋武之
21	分析手を命す		分析工 野村権一
"	"		" 山本 中
"	"		" 國居 龍一
"	實驗手を命す		實驗工 澄田米三
12-1	依頼解僱		技生 石田一實
2	煉炭部より備替	日給二円四十銭	實驗工 御手洗 滋
"	"	" 二円	" 中村熊夫

5-12-2	煉炭部より備替	日給二円二十銭	實驗工 内山熊雄
"	"	" 一円十五銭	" 内田包輔
"	"	" 一円七十五銭	" 清平庄作
"	"	" 一円六十五銭	" 大平貞助
"	"	" 六十五銭	見習職工 林敏太郎
"	"	"	" 増原主計
"	"	" 六十銭	" 河野千雄
"	"	"	" 早野 三
4	分析工に備入	" 一円四十銭	村橋武之
8	實驗工に試備	" 一円四十五銭	田畑好江
"	"	"	南場清一
21	實驗工に備入	"	田畑好江
"	"	"	南場清一
3-2	製圖工に備替		實驗工 御手洗 滋
"	"		" 中村熊夫
"	"		" 星井熊夫
"	製圖手を命す		製圖工 御手洗 滋
16	誓約違反に依る解僱		見習工 小林乙高
17	分析工に試備	日給一円五十銭	伊崎 作一
"	"		野村正治
"	"		三原正博
18	工務規則第二十八條第十一号該當に依る解僱		見習工 村重政治
24	實驗科特別班(第二部)係員職務執行を命す		技生 土井 茂
30	煉炭部より備替	日給一円四十五銭	分析工 原田祐

6. 雇員以下出身學校並海陸軍出身者調 (昭和六年三月三十一日)

科 別		帝國大學	高等工業	工業學校	中等學校	中等學校 半途の者	海軍下士 官出身	陸軍下士 官出身	現習職工 或常務
工務係	庶務・工務				2		2	2	
	倉庫				1	1			
	印刷								
調査科				1	1	2			
研究科	第一班	1		9					5
	第二班		1	2					2
	第三班	1	1	4					4
	第四班			10		1			6
	特別班		1	4					3
實驗科	第一班				1		9		1
	第二班		1	1					
	特別班		1	4			7		4
教習所				3					
計		2	5	38	5	4	18	2	25

7. 昭和五年度 職工勤務関係調

(1) 遅刻者調

月 別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	0	1	1	1	0	0	1	2	2	2	1	2	12

(2) 公務員傷者調

月 別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	2	2	2	3	1	0	2	1	2	0	1	1	17

(3) 公私傷病休業者調

月 別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	公傷	0	0	0	0	0	11	0	15	0	0	0	26
	私傷	80	25	24	84	114	41	18	10	13	35	33	479

(4) 事故休業者調

月 別	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	總延人員
延人員	25	18	24	24	45	18	20	8	28	42	38	13	323

8. 昭和五年度講演並雜誌會調

(1) 部内講演

回数	施行年月日	題 目	講 演 者
37	昭和 5-4-24	「シタノール」の合成に就て(第二報)	技 師 江口 孝
	"	粉炭を利用せる瓦斯発生炉の研究	機関少佐 並河 孝
38	5-5-15	潤滑油の研究(第二報)	
	"	環狀炭化水素の物理的性質に就て	嘱 託 景平一雄
	"	飛行船浮揚瓦斯及燃料瓦斯に就て	機関少佐 嘉納 吉彦
39	5-6-23	頁岩油の一處理法に就て	技 生 北村 占
	"	在界に於ける最近の石油の流況に就て	技 手 小池清澄

40	昭和 5-8-13~ 5-8-15	高分子化合物に就て	理学博士 野津龍三郎
41	5-8-14	私の見た有機化学	〃 野津龍三郎
42	5-9-22	製油工場に於けるニ、三の弊害に就て	技 手 緒方秀雄
	〃	重油噴燃実験に就て	機関少佐 宮下博雄
43	5-10-30	廠内電気方式と電気取扱法	機関少佐 河野英雄
	〃	高圧水素下に於ける芳香族化合物の熱分解	技 師 小川 亨
44	5-11-21	メチルクロライドに就て	機関少佐 並河 孝
	〃	石炭試験法委員会経過報告	技 師 小川 亨
45	5-12-19	タービン油の变质に就て	嘱 託 景平一雄
	〃	海外出張報告	技 師 秋田 稔
46	6-1-28	X線に就て	技 師 磯谷延昭
	〃	スロクトルに就て	嘱 託 藤本春彦
47	6-2-26	低温タール中のアスファレンに就て	技 師 山口昌三
	〃	満鮮事情一般	主計中佐 藤田傳次

(2) 部外講演

場 所	年 月 日	題 目	講 演 者
東京 工業化学會	昭和 5-4-4	ピッチの研究	嘱 託 住本誠治
東京 燃料協會	〃 5-7-12	粉炭を利用せる 瓦斯発生炉の研究	機関少佐 並河 孝

東京帝國大學 日本化学會	昭和 5-9-12	(1) 高温高圧下に於て芳香族炭化水素に還元ニツケル及水素の作用 (2) 高温高圧下に於ける「エーテル」類の熱分解	技 師 小川 亨
東京帝國大學 日本化学會	〃 6-3-14	低温「タール」中の「アスファレン」に就て	技 師 山口昌三

(3) 雜誌會

回次	年 月 日	題 目	講 演 者
28	昭和 5-10-21	恒温豫熱器に就て	分析工 波多野理太郎
	〃	軍用写真に就て	技 生 世良鷹一
	〃	Creep stress に就て	〃 中村 正
	〃	煉炭を用いたる瓦斯発生炉の研究	機関少佐 並河 孝
29	5-11-4	真空蒸溜の受器に就て	分析工 本居 昇
	〃	Convenient Reflex Regulator for Laboratory still	〃 西田安吉
	〃	石炭油化の一改良法	嘱 託 米谷省一
	〃	(1) Waterless gas Holder に就て (2) Water gas の Lust Hemsder に就て	機関少佐 嘉納吉彦
30	5-11-18	加圧の下に30年間貯藏した石炭瓦斯中の Iron Penta Carbonyl の発生に就て	分析工 佐々木和吉
	〃	高沸臭「タール」酸の熱分解に就て	技 生 北村 白
	〃	製油装置反應塔等に防蝕法として使用する non-metallic protective linings	技 手 緒方秀雄
	〃	金属酸化物の還元	嘱 託 住本誠治
31	5-12-22	活性水素に就て	分析工 久保作平
	〃	高圧水素下に於ける純有機化合物の熱反應	〃 妹尾英孝

31		" The thermal decomposition of paraffine wax in the presence and in the absence of hydrogen under high pressure " 収塵の機械的方法 " 實驗用ポンプの破裂の實例	技 生 垣本貞彦 機関少佐 楠田俊雄 技 師 秋田 稔
32	5-12-16	Cresol 及 高級 phenol からの Phenol 分離定量法 " 石炭の顕微鏡的研究法に就て " 臨界温度以上の高温に於ける炭化水素のクラッキングに就て " 高圧水素下に於けるフェノール類接觸的還元及水素添加	分析工 野村寅一 技 生 根本福治 技 生 土井 茂 技 師 小川 亨
33	6-1-13	石炭の試料採取法に就て " 活性水素に就て (其二) " X線の概念	分析工 原田梅雄 " 垣本忠一 技 生 磯谷延治
34	6-1-27	石炭より護謨の合成 " 原油貯蔵損失の低下に就て " 觸媒理論の現状	" 白井 章 分析工 手 平井數馬 技 師 江口 孝
35	6-2-10	潤滑油の化学的構造 " 銅觸媒の沈澱温度に依る活性度 " 蒸溜率の効率に就て	分析工 磯濱松一 分析手 山本 中 機関少佐 渡辺伊三郎
36	6-2-24	低温に於ける Normal paraffine の結晶構造に就て " Isolation of the Humic acids " 天然揮発油の貯蔵に就て " Über die Umwandlung der Fettsäuren in Kohlenwasserstoffe	分析工 田中 保 " 富田貞雄 分析工手 野村數雄 嘱 託 岸平一雄
37	6-3-10	Dimethyl sulfate に依る phenol の methylation に就て	分析工 今住信雄

37		" 酸化銅に依るノランの燃焼 " Absorption spectra of polyatomic molecules " The mechanism of thermal decomposition of the normal olefins.	分析工 河村悟作 嘱 託 藤本春季 技 師 藤尾 誓
38	6-3-31	酸化銅の硬度及厚さの測定に就て " 内火式機械燃料関係のバーハローツプに就て " 米國に於ける石炭研究の情況	技 生 門田秀造 技 手 中西 卓 機関中佐 別府良三

9. 昭和五年度主要行事調

年月日	記 事
5-4-22	研究部物品整理施行
4-5	軍縮問題に關し午前十一時二十分より食市場に於て研究部長の訓示あり
4-18	煉炭部職工食市場に於て午前八時より販部東一氏の無終無し週間に就ての講話あり
4-24	小松教授研究指導の爲來廠
4-25	午後三時より圖書室に於て小松教授の討論會開催
4-27	昭和五年度第一回當廠従業員慰安會(陸上運動會)を徳山町設「ラウンド」に於て挙行

- 5-4-28 午後二時より食事場に於て工務主任より無駄無し週間に関する講話あり
雇員、職工、体重秤量検査施行
- 5-5-5 無駄無し週間施行
- 5-15 小松教授研究指導の為来廠
- 5-16 午後二時より小松教授の特別討論會を於圖書室開催
- 5-19 午前十時三十分より部長室に於て職工昇給會議開催
- 5-27 二十五年海軍記念日 午前八時五分より煉炭部職工食事場に於て煉炭部長の日本海に戦の講話あり
- 6-2 小松教授研究指導の為来廠
午前九時より特別實驗場宅神祭施行
- 6-4 午前九時より研究部長部内巡視
- 6-5 午前九時十五分より廠長巡視
- 6-6 恒例檢閲
- 7-7 研究部長より恒例檢閲訓示傳達
- 7-18 研究部長、實驗部長打合會議出席の為海軍省へ出張 終了後引續き陸海軍油類規格協定會議へ出席
- 7-15 衛生週間実施
- 8-10 午前十時より煉炭部職工食事場に於て離本回覽の活動写真觀覽
- 8-13 研究部圖書室に於て高分子化合物に就て市大教授

- 櫻野津龍平即氏の講演開催
- 5-8-21 午前九時より於圖書室、水素回收に関する討論會開催 (参考者判任官以上)
- 8-23 午前十時より於圖書室分析競技賞品授與式舉行
- 9-1 関東震災七周年記念日 午後〇時半より職工食事場に於て嘉納機関少佐の関東大震災の追懷談あり
- 9-8 霞ヶ浦海軍航空隊第十五期整備學生實習
- 9-18 財一七號分析所不造平家改増築の為解毀
- 9-24 研究部長秋季實驗 研究部長會議の為大阪市へ出張
- 9-29 分析所(財第一七號)増改築基礎工事開始
- 10-6 陸軍科學研究所長陸軍中將黒崎延治即外一名来廠
- 10-8 石炭液化裝置事故の爲人夫一名重傷後死亡
- 10-10 昭和五年度徳山本廠従業員慰安會開催(觀劇)
- 10-15 徳山本廠修養團従業員講習會を虹ヶ濱に於て開催
- 10-24 軍事參議官海軍大將財部彪外副官一名来廠
- 10-27 安全週間實施
- 安全週間に就て研究部長講話 引續き別府工務主任より注意に就て講話あり
- 10-28 雇員、職工、体重秤量検査 及廠殉職者招魂祭執行
- 10-30 教育勅語演祭四十周年記念日
午後三時半より煉炭部職工食事場に於て教育勅語奉讀式舉行 終つて廠長訓示
練習艦隊司令長官海軍中將在途司政三外幕僚来廠

- 5-11-7 石炭分析法協議會を部長室に於て開催
- 11-23 午後一時より於部長室頁岩油討論會開催
- 12-1 午後一時より於部長室秋田技師の政米出張報告あり
- 12-8 午後一時より於圖書室石炭液化研究會議開催
- 12-27 御用納 午後零時三十分退廳
- 6-1-1 午前十時十五分より煉炭部職工食事場に於て新年互例會開催
- 1-4 政始 午前十時より煉炭部職工食事場に於て勸諭奉讀式舉行 終て廠長年頭訓示
- 1-5 海軍省軍務局長海軍少將堀悌吉來廠
- 1-6 定刻出勤始業準備、午前九時十五分煉炭部職工食事場に總員集合廠長訓示終て作業再興
- 1-16 午後零時三十分職工食事場に於て研究部長年頭訓示
- 1-18 花園方面に於て睦會免狩舉行
- 1-30 午後二時三十分より煉炭部職工食事場に於て離本回付活動写真觀覽
- 2-17 軍事參議官鈴木陸軍大將及副官一名來廠
- 2-19 第三戰隊司令官海軍少將松下元 外幕僚數名來廠
- 3-17 午後三時三十分より煉炭部職工食事場に於て山口縣廳社會事業主事篠崎篤三氏の「國民融和」に就ての講演あり
- 3-18 海軍潛水學校長海軍少將榎岡信次郎 外教官學生數名來廠
- 3-24 第二水雷戰隊司令官海軍少將後藤 章 外幕僚數名來廠
- 3-26 午後二時より講演室に於て小松囑託の政米出張談あり